

Techno Times

テクノタイムス

研究協力会からの お知らせ

新生富山県立大学 記念フォーラム

平成18年4月からの学科再編による新たなスタートを記念し、大学が委嘱するアカデミックアドバイザー（中島尚正氏、畚野信義氏、山野井昭雄氏）や中尾研究協力会会長をお招きして「ものづくりの未来を拓く」をテーマにフォーラムを開催します。

日時：6月1日(木)
開学記念日
13:30～16:45
場所：富山県立大学大講義室
内容：①アカデミックアドバイザーによるリレー講演
②アカデミックアドバイザーを囲んでのフリーディスカッション
アカデミックアドバイザー
中尾哲雄研究協力会会長
中島恭一県立大学学長

富山県立大学 イブニングセミナー

県内の若手技術者を対象に講義・実習のセミナーを年2回開催します。

<前期>
日時：6月27日(火)
～7月25日(火)
各火曜日の5日間
場所：富山県立大学研究棟
テーマ：技術者のための
圧縮性流体力学入門
講師：機械システム工学科
坂村助教
受講料：10,000円
募集：5月中旬より

<後期>
日時：10月～11月頃の
5日間
分野：情報システム工学科

富山県立大学地域連携公開セミナー スタートアップ研究成果報告会

学内研究費による成果報告会を県内企業関係者などに公開します。

日時：6月12日(月)・13日(火) 10:00～16:30
場所：富山県立大学
その他：参加自由

ダ・ヴィンチ祭

県立大学では、子供たちの科学への興味や関心を高めるための科学イベント「ダ・ヴィンチ祭」を開催します。

日時：8月5日(土)
10:00～15:30
場所：富山県立大学

富山県立大学公開講座

県立大学では、大学の研究成果をひろく社会に開放するため、年2回、公開講座を開催します。

<春季公開講座>

日時：7月15・29日(土) 14:00～16:30
場所：高岡市生涯学習センター研修室503号
テーマ：自然、人間、社会
その他：募集開始 6月

<秋季公開講座>

日時：10月14・21日(土) 13:30～16:00
11月4・11日(土)
場所：富山県立大学大講義室
テーマ：わかりやすいインターネット技術

編集・発行

富山県立大学研究協力会事務局
(富山県立大学地域連携センター内)

〒939-0398 富山県射水市黒河5180
TEL 0766-56-0604 FAX 0766-56-0391
E-mail renkei@pu-toyama.ac.jp
HPアドレス http://www.pu-toyama.ac.jp/kyouryokukai/

産学連携への期待 銀行の役割

北陸銀行 金融公金部長
赤根賢治氏

大学 対 企業 での『財』と『財』のマッチング 銀行は両者の『潤滑油』になりたい

銀行が産学連携に期待することとは、企業・大学それぞれのシーズとニーズを活用することで、最終的にお客様が利益を上げ、これによって地域が潤い、それぞれが更なる発展を遂げていけることでもあります。

従来より銀行は、お客様とお客様を結び利益を上げて頂くようなビジネスマッチングを一生懸命に行ってきました。同じような考え方で、産学連携は大学の持つ知識や技術力と企業とのビジネスマッチングであると考えております。企業対企業だけでなく、大学対企業での『財』と『財』のマッチングが必要なのだと思います。

私たち銀行はありとあらゆる業種に係らせて頂いています。経営者と直接お話しさせて頂く機会も多いことから、企業

のいろいろな悩みを聞ける立場にいます。これまでは金融ノウハウを提供することで顧客サービスを行ってまいりましたが、企業の悩みをお聞きし、ニーズに合った先生をご紹介させて頂くこともαのサービスとして重視しております。

国公立大学の独立法人化が進む中、大学側の悩みもお聞きする機会が増えました。「自分たちの成果を活かしたい」とか「地域に貢献したい」といった思いをお持ちであることをあらためて認識いたしました。

しかし、まだまだ一般の企業にとっては、大学は敷居の高いものであると感じていらっしゃるはずで、共同研究をしましょうといっても具体的なイメージが湧かないというのが企業側の率直な思いではないでしょうか。最近、大学側の多大な努力によりその敷居はかなり下がりました。私たちはその下がった敷居に、少しはしごをかけるような役割を果たせればと思っています。

特に、研究設備の少ない中小企業には積極的に大学と連携して頂きたいと思っています。大学の持つ最先端の設備やスタッフを最大限に活用し成果を上げて頂ければと考えております。大学の先生方にとっても、企業側のニーズを理解した上での研究の方が、両者にとって大きな成果を生む場合が多いのではないかと思います。

そういった産学連携に期待する一方、大学にはやはり最先端

技術の研究機関であって欲しいと思いませんし、基礎研究など目先の利益に捉われない研究も大切だと思います。今すぐ役に立たない研究でも、将来役に立つことがあるという例は少なくないと思います。そういった研究が地域の財産となり、日本の国力になります。すぐに利益を生む研究と将来的な利益を生む研究のバランスをいかにとるかが課題だろうと思います。

産学連携はまだまだスタートしたばかりです。これまで銀行は絶縁的な係わり方をしてまいりましたが、これからは双方への具体的な係わりを強化し、潤滑油のような役割を果たしていきたいと考えております。

将来的には地域地銀としての当行の全国的なネットワークを活用して頂き、地域を越えた大学・企業のマッチングを図ることにより、企業の様々なニーズに応えていきたいと考えております。我々自身もお客様の技術的なニーズを上手くキャッチできるようアンテナを高く張ることが必要であると考えています。また、私たちのような技術の素人でも、ニーズに合った先生方に口会えるような、素人目線にあわせた情報開示の仕組みも大学側では必要になると思います。

産学の連携が地域へ大きな貢献をしていくのはこれからだと思います。企業・大学・銀行が力を合わせ、双方の悩み寄りよりスピードアップして成果を上げていくことが重要ではないでしょうか。

